



生活経済ジャーナリスト
和泉昭子

6月11日(金)・12日(土)に丸ビルで開催される「マネーフエスタ2004inTOKYO」(主催/産経新聞社)に講師として登場。申し込み、詳細は下記のホームページで確認を
<http://www.money-festa.com>

OL economic terms
経済用語事典

円高・円安、為替相場が変動する影響は？

ルイ・ヴィトンは世界中どこで買ってもあまり大きな価格差がない。これは、為替の動きと製造コストに応じて、定価を調整する仕組みをとっているからだ。日本でのルイ・ヴィトンの販売価格はパリの本店の1.4倍がメド。今年の4月末、円高の影響で日本国内のレザー商品を平均5%値下げした。為替相場なんて海外旅行に行くときにしか関心がないかもしれないけれど、生活の大部分を輸入に頼る日本に住んでいる限り、実は為替の影響から逃れることはできない。そこでまず、基本をおさらいしておこう。「円高」は、外貨に対して円の価値が上がること、「円安」はその逆に、価値が下が

ることだ。例えば、1ドル=120円が110円になったら円高。1ドルのチョコレートを120円出さなければ買えなかったのが、110円で買えるようになる。海外に行ったり輸入品を買う場合は、持っている円が強くなる円高が有利。ブランド品のみならず、原料を海外から輸入しているガスや電気の料金も円高還元で安くなる。一方、自動車や電機といった輸出関連企業では、円高になると海外での価格が高くなるため、競争力が落ちて業績が悪くなる。これらの業種に勤めている人にとっては、ボーナスにだって影響しかねない。

最近人気の「外貨預金」も為替相場の影響を受ける。これは日本

円をドルやユーロなどの外貨に交換する預金。円の預金に比べて相対的に高い金利にひかれる人が多いようだが、もうかるかどうかは金利より為替の動向次第だ。外貨預金は元本も利息も外貨なので、一般的に満期時には円に戻すことになる。そのときの為替レートが、預入時より円安ならもうかるし、反対に円高だと元本割れするリスクもある。また為替手数料もかかるので、手数料の安さも金融機関選びのポイントだ。

いざとなったら外貨預金は、トラベラーズチェックやカードで外貨のまま使うという手もある。日ごろから為替レートをチェックして感覚を磨いておこう。

▶この記事に関する意見・問い合わせ シティ編集部 ☎03(5208)4520